

あなたにとっての理想的な「暮らし方」を考えてください。世界的に活躍する陶芸家、美術館の学芸員、現役高校生のスポーツ選手。座談会の参加者たちにこの質問を投げかけました。そこから見えてくる「住みたいまち」の姿。そして、そのために自分ができることなどを古川市長と語り合いました。

新春座談会

“暮らし方”を考える



▲新春座談会の様子。左から新里明士さん、勝股美咲さん、古川市長、佐藤昂気さん、村山閑さん(駅北庁舎2階多目的スペース)

10位

移住定住施策を展開

9位

公共施設適正配置の基本方針を策定
【8月24日】

8位

駅北17街区にプロジェクトションマッピング飲食店「TREE by NAKED」がオープン【10月11日】

7位

地域あいのりタクシーの運行補助開始
(地域内交通拡充)【4月1日】

6位

モザイクタイルミュージアム開館1年を待たず入館者が10万人を突破【2月18日】

5位

東美濃ナンバー導入に向けて協議会発足
【10月12日】

4位

多治見駅南地区市街地再開発事業の建設系事業協力者に株式会社竹中工務店が決定【5月19日】

3位

国際陶磁器フェスティバル美濃'17が開催され眞子内親王殿下がお成り【9月14日、15日】

2位

長瀬テクノパークへ日本ガイシ株式会社の進出が決定【5月18日】

1位

多治見高等学校が第89回選抜高等学校野球大会に出場【3月20日】

2017
多治見市
10大
ニュース



より上を目指し、 挑戦を続ける人たち

本題に入る前に、座談会のメンバーを紹介します。



ビジターだからこ
そでできることを考
え、この土地と関
わっていききたい。

新里 明士さん (土岐市)陶芸家

出身は千葉県君津市。幼少時代は主体性の無い子でしたが、その反動のように、成長するにつれ自我を主張するようにになりました。結局、表現の手段として私が選んだのは陶芸でした。多治見市陶磁器意匠研究所※（以下、意匠研究所）に入るため、進学した東京の大学は3年でやめ、岐阜に来ました。

平成23年ごろから、海外で滞在制作するようになりました。きっかけは、文化庁新進芸術家海外研修制度研修員としてボストン（アメリカ）で経験した約1年間にわたる制作活動です。その後も海外で滞在制作をしています。最近では「産地」にこだわって行くようにしています。ここ（岐阜県東濃地域）もそうですが、産地はやきものの生産システム（仕組み）が確立していて、独自のやきものがあります。自分がそれをどう解釈していける



タイルには未知の可能性が
多いと気付きました。

村山 閑さん (春日井市) モザイクタイルミュージアム 学芸員

か、考え、消化する機会にしたいと思っています。
私が東京からこちらへ移住してきて20年近くが過ぎました。まだビジター（外から来た人）感覚が抜けませんが、そんな私だからこそできることを考え、この土地と関わっていききたいと思っています。
出身は東京です。美術好きな両親に連れられ、幼いころから美術館や博物館を見て回っていた影響で、芸術に関わる仕事がしたいと考えてるように

なりました。結局、芸術系の大学へ進学し、芸術について学び、伝える立場である「学芸員」になる道を選びました。
平成21年、勤めていた「岐阜県現代陶芸美術館」でタイルの展覧会「タイルのう・きよう・あした」を担当しました。やきもの、建築素材、デザイン。タイルは、さまざまな分野に関係するけれど、脇役として扱われることが多いと感じました。その分、未知の可能性が多く、「タイルは面白い」と思いました。これが、モザイクタイルミュージアムに来ることになったきっかけです。
平成28年6月に開館したモザイクタイルミュージアムは、連日、若い女性を中心に多くの来館者でにぎわっています。私は、このにぎわいがモザイクタイルミュージアムだけにとどまらず、多治見のまち全体のにぎわいにつながると良いと考えています。

小学1年生から野球を始めました。野球観戦が好きで父の影響もありますが、何より私自身、体を動かすことが好きだったからです。地元のスポーツ少年団に入り軟式野球をしていましたが、中学からは硬式がやりたくて「岐阜東濃リトルシニア」に入りました。

野球の練習でつらいのはオフシーズンの冬です。冬は基本的に体を作るために走り込みます。決して面白いとは言えないこうした練習を行うことで、春からの本番に十分な力を出すことができます。野球を長年やってきて

佐藤 昂気さん
(元町)
多治見高等学校3年生
硬式野球部前主将



野球を長年続けたおかげで、継続して何かをやり遂げる力が身に付きました。

身に付いたと思えることは「継続して何かをやり遂げる力」です。これは、野球に限らず生活のさまざまな所で私の力になっています。

昨年、春のセンバツ甲子園に出場する栄誉をいただきました。多治見高校のグラウンドが狭く実践練習ができなかったこと、勉強との両立で苦労したこと、いろんな壁を乗り越えての出場でした。高校生活も残すところあとわずかですが、私たちに与って誇れる一生の宝物になりました。



幼いころは、人見知りが激しく、人前で話すことが苦手でした。反面、体を動かすことは大好きなので、休み時間には運動場に飛び出し、友達とドッジボールなどをして楽しむ子でした。

小学4年生になると、姉が入っていたソフトボールクラブに顔を出すようになりしました。指導に来ていたコーチに「一緒にやるか」と声を掛けていただき、小学5年生から特別参加させていただくようになりました。ソフトボールと出会い、いつの間にか人前に出ることも苦にならなくなりました。

姉の試合を見て、「かっこいいな」と思い始めたソフトボールですが、現実

勝股 美咲さん
(瑞浪市)
多治見西高等学校3年生
ソフトボール日本代表
強化指定選手



小さいころは人見知りが激しい子でした。

はそんなに甘くありませんでした。一つのことを習得するために、同じことを何度も練習しなければなりません。それでも、成果が出た時はとても嬉しく、もつと頑張ろうと思うことができます。今は、2年後のオリンピックで金メダルを取ることが目標ですが、それ以上に人から応援してもらえたい選手になりたいと思っています。なぜなら、支えてくれる人がいるからこうしてソフトボールができるのですから。

※多治見市陶磁器意匠研究所

美濃焼の特色である多彩なやきものの技術をベースに、幅広い技術について研究できるカリキュラムと設備を用意している。現在は8百人を超える若い人材が巣立ち、陶芸家やデザイナーとして活躍している



あなたにとっての理想的な暮らし方

座談会のテーマ「暮らし方を考える」について、自分が考える理想の暮らし方をそれぞれ画用紙に書いてきてもらいました。

村山 私は「自然体+α（プラスアルファ）」です。「暮らし」は一生継続します。自分らしく自然に生きていけたらいいと思っています。でもそれだけでは面白くないから、ちよつと刺激があるといいな、と思い「+α」としました。

佐藤 私は「スポーツと共に生きる」です。スポーツをすることが大好きなので、大人になってもスポーツを通して人とつながっていききたいです。

勝股 私は「夢や目標に向かって頑張

り続け、自分で幸せをつかむ暮らし方」です。自分で努力してつかんだ幸せの方がより価値があると思うので、これからいろいろなことに挑戦してみとっていききたいです。

新里 私は白紙です。言葉で限定したくないので、あえて白紙にしました。きつとこれから先、自分が考える「理想の暮らし方」は変わっていくと思います。今やっていることを精一杯やるしかないと思っています。

どんなまちならずっと住んでみたいですか

佐藤 スポーツで人がつながるまちがいいですね。

村山 今までで住みやすかったのは、東京の葛飾区です。近所との交流はあるけど干渉しすぎないほど良い距離感が居心地良かったです。

新里 私自身、外から来たのでよく分かりますが、多治見は比較的開放的なまちです。もつと人を受け入れる何か、例えば「アーティスト・イン・レジデンス※」のような取り組みがあるともつといいと思います。ビクター（外から来た人）ならではの視点が加わればまちは活気づくと思います。

村山 確かに、この辺りの人はビクタ

まちのためにあなたなら何をしますか

新里 私は作家として外に発信していける人材になりたいです。私が意匠研究所に入りたいと思ったのは、そこに尊敬する先生や先輩がいたからです。自分もそういう存在になりたいです。

市長 なかしま はるみ 中島晴美所長にაცოგაღეて意匠研究所に入る若い人が多いと聞いています。

新里 意匠研究所を卒業した後、そのままこの地に住み続ける子たちが多くなります。おそらく、作品を作るため

ーをふわつと包み込む感じがありませんね。

勝股 日本代表に選ばれて、地元で「応援する会」を作っていただきました。支えてくれる人がたくさんいるからこそがんばれます。佐藤さんが甲子園に出場した時、4千人が駆け付けたというのは本当ですか。

市長 勝股さんがオリンピックに出場する時も、同じようにバスを用意して応援に行きます。

※アーティスト・イン・レジデンス

芸術制作を行う人物を一定期間ある土地に招き、その土地に滞在しながら作品制作を行わせる事業

の土壌（制作場所や窯）があることと、作家同士の縦と横のつながりが面白いのだと思います。

村山 今の私にできることは、モザイクタイルミュージアムの職員としてタイルの魅力をできるだけ分かりやすく広く伝えていくことだと思っています。

新里 モザイクタイルミュージアムはいつも多くの人でにぎわっていますね。世界的な建築家 ふじもり てるお 藤森照信さんのデザインによる建物が年齢問わへ



「まず、幅広い人たちに受けているの
でしょうか。」
村山 確かに、他にはない建築デザインに注目が集まっていると思います
が、それだけで終わらないようにしたい
です。きっかけは「粘土山」から発想
を得てデザインされた不思議なカ
チをした建物だとしても、ここで何か
を感じ、それを持ち帰ってもらうこと
が大事だと思います。

定するのに相当な議論をしました。そ
うする中で、藤森さん本人とお話しす
る機会があり、この人は一流だと確信
しました。結果、あのデザインが多く
の人の心をつかみ、誘客につながって
います。
勝股 私は「応援して良かった」と思わ
れるような選手になりたいです。
佐藤 私は生まれ育った多治見が大
好きなので、大学進学でいったん外へ
出たとしても、いつかは戻ってきたい
です。夢は教師になって地元の学校で
教えることですが、仕事とは別に、こ
のまちのために、自分が続けてきた野

球を子どもたちに教えたいと思って
います。
市長 私も大学進学で東京に出まし
たが、長男ということもあり就職とと
もに多治見に戻ってきました。一度外
に出ると、ふるさとの良さが身に染み
ます。学生のころ、帰郷するたびに名
古屋から中央本線でいくつものトン
ネルを通り抜けました。やっと多治見
のまちが見えてくると涙が出そうに
なったのを思い出します。
新里 高蔵寺から急に山が多くなる
ので、最初は驚きました。

ほど良く、自然も身近にあり暮らし
やすいです。また、古くから虎渓山永
保寺や神言会多治見修道院など、人
を育てる機関が集まっています。意
匠研究所もその一つです。文化的にも
美濃焼の人間国宝を4人輩出してお
り、建築物と合わせると6つもの国
宝があるまちです。私は、この素晴ら
しいまちを誇りに思うとともに、子
どもたちにしっかりと伝えることを政
策として実践しています。これが「住
んでみたいまち」につながると信じて
います。

